

# 大麦特報 (第3号)

令和4年3月  
なのはな農業協同組合  
富山農林振興センター

今年も積雪が多く、排水溝が崩れたり、溝に水が停滞しているほ場がみられます。ほ場の状態を確認し、排水溝を手直しするなど排水対策を徹底しましょう。  
分施肥体系で栽培している場合は、大麦の生育回復と穂数確保のため、遅れずに追肥を行いましょう。

## 1. 排水溝の点検・手直し

溝に水が溜まったままになっているほ場では、湿害により根の伸長が阻害され、生育不良につながります。ほ場内の停滞水を排除するため、**排水溝の点検・手直し**を行うとともに、**排水口は深く掘り下げ、確実に溝と連結**しましょう。

湿害を受けると、  
養分を吸収できず  
葉色が淡くなって  
しまいます。



排水溝の崩れを直して  
溜まっている水を早く  
排水しましょう！

排水溝の連結や  
排水口の掘り下げも  
忘れずに！



## 2. 消雪後の追肥 (分施肥体系のみ)

冬期間に消耗した大麦の生育を回復させ、適正な茎数・穂数を確保するため、適切に追肥を施用しましょう。

**時期** 3月上旬 (消雪後、速やかに)

**施用量** 硫安 20kg/10a

※茎数が多く、条間の土が見えないくらい繁茂しているようなほ場では、  
施用量を減らしましょう。

※肥効調節型肥料(Jコート大麦48号)を施用したほ場では、**原則として追肥の必要はありません。** (ただし、極端に葉色が淡い場合は、農協や農林振興センターにご相談ください。)